

平成26年12月24日
一般社団法人日本自動認識システム協会
研究開発センター 酒井

第3回 生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会 議事録

1. 日時：平成26年12月19日 13:00～15:00

2. 場所：一般社団法人 日本自動認識システム協会 (JAISA) B会議室

3. 次第：

- | | | |
|------------------|-------|---------|
| 1. 開会の挨拶 | 事務局 | 13:00 ～ |
| 2. 配布資料の確認 | 事務局 | 13:01 ～ |
| 3. 議事 | 半谷委員長 | |
| 1) 委員長挨拶 | 委員長 | |
| 2) 前回議事録確認 | 事務局 | 13:05 ～ |
| 3) 作業委託について | 事務局 | 13:15 ～ |
| 4) 西宮市情報センター出張報告 | 事務局 | 13:25 ～ |
| 5) 調査および検討結果報告 | 中村委員 | 13:40 ～ |
| 4. 事務連絡 | 事務局 | 14:50 ～ |
| 1) 今後の日程 | | |
| 2) 写真撮影など | | |

4. 出席者：(敬称略)

[委員]

○半谷精一郎 東京理科大学

×寶木和夫 (独法)産業技術総合研究所

○吉田稔 西宮市情報センター

○村上秀一 (株)日立製作所

○中村敏男 (株)OKI ソフトウェア

○清水光俊 川口市

○埴俊浩 日本電気(株)

○平岡良彦 セコム(株)

○鷲宏行 (株)NTTデータ

○平野誠治 凸版印刷(株)

○齋藤雄一郎 富士通 (株)

[オブザーバ]

○高田直幸 セコム(株)

×山田徳幸 日本電気(株)

×岩永敏明 経済産業省

×中山和泉 経済産業省

○加藤裕昭 (株)日立産業制御ソリューションズ

[事務局]

○酒井康夫 (一社)日本自動認識システム協会

○山口理津子 (一社)日本自動認識システム協会

5. 配布資料

- 資料1 第3回生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会アジェンダ
- 資料2 第2回 生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会 議事録
- 資料3 被災者支援システムへの生体認証組込部のプログラム仕様作成検討計画書
- 資料4 20141212-西宮市情報センター出張報告
- 資料5 調査および検討結果報告

6. 議事内容

1) 開会の挨拶

(一社)日本自動認識システム協会(JAISA)事務局より、開会の挨拶があった。

2) 新委員の紹介

事務局より、本日の会議にオブザーバとして加藤様が参加することの報告があり、ご本人の紹介があった。

3) 前回議事録確認

事務局より、資料2を用いて、前回議事録の確認があり、以下、項目番号を修正があった上で、承認された。

①4)→5)、5)→6)

4) 作業委託について

半谷委員長より議事の進行をいただき、事務局より資料3を用いて、「作業委託について」の報告があった。

前回会議にて説明があった通り、被災者支援システムへの生体認証組み込み部のプログラムについて見積り回答をいただいた結果、4社中3社が辞退となり、OKIソフトウェアに作業委託が決定した。また、それに伴うプログラム仕様作成の方針について事務局より説明があった。(詳しくは資料3を参照のこと)

5) 西宮市情報センター出張報告

事務局より、資料4を用いて12月12日に行われた、西宮情報センターでの打合せの報告があった。(詳しくは資料4を参照のこと)

以下が修正となった。

①打合せ日時の曜日：12月12日(月)→12月12日(金)

②被災者支援システムのバージョン：V7.0→V6.0

③下から3行目：委嘱→移植

④2ページ下から2行目：改行を詰める。

審議の結果、報告の通り進めることとなった。

6) 調査および検討結果報告

中村委員より、資料5を用いて、「調査および検討結果」の報告があった。(詳しくは資料5を参照のこと)

質疑応答を経て、今後の課題として以下の検討を行うこととなった。

- ①要支援者の同意を得る際、認知症などの本人確認が難しい場合、委任者同意の旨をデータベース上に入れる。
- ②被災者支援システムに住民番号も認証手段のひとつとして考える。
- ③被災者が避難所で生体認証を行うに至る前段階のプロセスを整理する。
- ④住民台帳と要支援者名簿をマッチングさせる部分を、プロセスに追加する。
- ⑤要支援者台帳の目的外利用について。

7) 次回以降の予定等 (仮)

1) 委員会開催について

- ①場所： 一般社団法人 日本自動認識システム協会にて
- ②日程： 第4回 2015年3月3日 15:00～17:00

以上